

706A-1
2x197Z

勞力不足の對策として俘虜を使用せんとする計畫

曩に軍關係作業廳及港灣施設勞務者不足の緩和策として、在善通寺俘虜收容所に收容中の米兵俘虜一五〇名を大阪に分遣勞役に服せしめたる所、其の成績良好なるものありしに依り、豫てより勞力不足に悩みつゝありし東京、兵庫、福岡、長崎等の各府縣に於ける事業主方面に在りては軍に對し俘虜の使用方懇請する所ありたり。即ち

(一) 兵庫縣下に在りては神戸港に於ける荷役業關係者及廣畑港日鐵荷役業關係者に於て俘虜六八〇名の使用方を軍に申請中

(二) 福岡縣下に在りては門司港石炭荷役業關係者に於て俘虜使用の希望を有し、所轄門司警察署長に對し、之が幹施方願出たるが、更に之と別個に北九州に於ける港灣荷役作業の逼迫狀況に鑑み、俘虜一、〇〇〇人を配置することに決定せり。

(三) 長崎縣下三菱造船所及香燒島造船所に在りては既に軍の認可を得三菱造船所二、〇〇〇人香燒島造船所一、〇〇〇人の俘虜を夫々配置せらるゝことに決定せり。

7c6A-2

(四) 警視廳管下に在りても芝浦に於ける貨物の
積却作業に従事せしむる爲既に俘虜使用の
認可を得、近く馬來方面より英兵俘虜四〇
〇人が輸送せらるゝことに決定せり。
斯くして國內に於て就役する之等俘虜に對
する直接警戒及指導は總て擔當すると雖も、
俘虜の就役する地域の地方民に對する防牒
兵の他に關する指導取締は警察當然の任務
と言ふことを得べく、從て前記計畫にして
實現したる場合に於ては關係方面と連絡の
上適切なる指導取締を加ふるの要あり。

doc 706A

證明書
文書局第
國際檢察部 第七百六號

典據及公正之證明

余柴田卜三部、余が下記資格於て、即ち内務事務官として、日本政府との關係に在り、且て、茲に該官吏として余が茲に添附せらるる千九百四十六年、昭和二十一年一月乃至十二月附、下記題名即ち特高月報、文書、保管に在り、且て、茲に證明す。
余更に添附、記録及び文書が日本政府、公文書として、且て、下記名稱、省、又、部局、公式書類及び綴、一部として、證明す。
(右に添附、又、引用、其、公文書類又、綴、於て、該文書、正現所存、公式名稱、を特記せし) 内務省

千九百四十六年、昭和二十一年、十一月四日

東京に於て署名

當該官吏署名欄 柴田卜三部 (柴田)
右、者、公的資格 内務省警務局公安課
證 人 岡田政一 (岡田)

公式入手之證明

余 J.A. Curtis、余が聯合國最高指揮官總司令部關係に在り、且て、茲に上記題名、文書、余が公に、日本政府、上記署名官吏より入手せらるる、且て、茲に證明す。

千九百四十六年、昭和二十一年、十一月五日

東京に於て署名

右、者、公的資格 J.A. Curtis 2d Lt
證 人 國際檢察部調査官
Richard H. Larsh